

Vertiv (VRT) 投資戦略レポート - AIデータセンター純粋プレイの割高検証

VRT

AIデータセンターインフラの純粋プレイ最大手。受注残+109%・連続上方修正と事業の質は最高クラスだが、PER約97倍・逆DCFが永久成長5.68%を要求し、フェアバリュー217~222ドルに対し現値331.44ドルは3割超割高。押し目待ちのWatch。

米国株

AIインフラ

データセンター

電源・冷却

Watch

公開日 2026-06-05
著者 Investment Research
分析モデル Claude Opus 4.8 (1M context)

investment.kekke-developer.com

本レポートは特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資判断は読者ご自身の責任において行ってください。詳細は本文末尾の免責事項をご参照ください。

作成日

2026-06-04

株価・配当基準日

2026-06-03 NY 終値

対象銘柄

VRT / Vertiv Holdings Co (NYSE・情報技術
/ データセンターインフラ)

結論

主目的: グロース O (3~5年) / 総合: Watch
/ 目標株価 217 ドル (フェアバリュー) / 損
切りライン -

データソース

SEC EDGAR (10-K / 10-Q / 8-K / DEF 14A)、
Vertiv IR、Yahoo! Finance、Dell'Oro Group、
Uptime Institute、IEA、FRED

レポート概要

AI データセンターインフラの純粋プレイ最大手。受注残 +109%・連続上方修正と事業の質は最高
クラスだが、PER 約 97 倍・逆 DCF が永久成長 5.68% を要求し、フェアバリュー 217~222 ドル
に対し現値は 3 割超割高。押し目待ちの Watch。

分析モデル

Claude Opus 4.8 (1M context)

本資料は情報提供のみを目的とし、投資勧誘・投資助言を行うものではありません。投資判断は読者ご自身の責任で行ってください。

AI データセンターの「電源と冷却」を一手に担う最強の純粋プレイ。問題は事業ではなく、株価がそれを織り込み過ぎている点にあります。

0. 結論

この章で見えてくること

VRT の投資判断と、その核となる強気材料・弱気材料を最初に整理します。詳細は §1 以降で検証します。

長期見通し

WATCH

確信度 中

目標株価
217

想定保有
12~24か
月

電源・冷却の純粋プレイ最大手だが現値が
DCF公正価値の3割超上方にあり押し目待ち

スイング見通し

様子見

※2026-06-03 時点

上昇トレンドだが需給弱く明確なスイング
セットアップ未成立（現値が20日線下・需
給スコア中立未満）

本質は「最高クラスの AI データセンターインフラ純粋プレイだが、株価が将来成長を織り込み過ぎている」グロース銘柄です。グロース目的なら長期で妙味がありますが、現値での新規買いには慎重さが求められます。

業績モメンタム – AI データセンター需要を純粋プレイで取り込み、受注が売上を先行
FY2025 売上は 102.3 億ドル **A**（前年比 +27.7%）、営業利益は 18.30 億ドル **A** でした。注目すべきは受注残で、150 億ドル（前年比 +109%）**A** まで積み上がっています。Q4 の book-to-bill は約 2.9 倍 **A**、オーガニック受注は前年同期比 +252% **A** と、受注が売上を大きく先行しています。経営陣は 2026 年 4 月の Q1 決算で FY2026 通期ガイダンスを上方修正 **A** しており、需要の確度は高いと言えます。

株価とバリュエーション – 質は本物だが価格が将来を織り込み過ぎる 現値 331.44 ドル **B** は 1 年で約 +195% **B** 上昇し、トレーリング PER は約 97.2 倍 **B** に達しています。逆 DCF は現値を正当化するために 永久成長率 5.68% **B** を要求しますが、これは名目 GDP の上限（3~3.5%）の倍近い数値です。DCF が示すフェアバリューは 217 ドル **A** で、現値はそこから 3 割超も高い水準にあります。

構造リスク – 高バリュエーション巻き戻し・競争激化・需給悪化が並走 最大のリスクは、株価そのものに内在しています。以下が同時並行で進行している点を、まずご確認ください。

- **PER 97 倍・PBR 32 倍の高マルチプル巻き戻しリスク **B****
（金利上昇や成長僅減で圧縮）
- **AI 投資サイクルの後期化・ピークアウト **A****（受注残は 12~18 か月で履行される）
- **液冷アームレースでの競争激化 **A****（Eaton・Schneider の侵攻）
- **米国売上 58.8% 集中と電力供給制約による出荷遅延リスク **A****
- **最終需要が上位ハイパースクーラーに集中 **A****

加えて需給面では、経営陣が株価ピーク手前で約 49 万株・約 1.2 億ドルを協調売却し、直近 6 か月は売り越し **A** となっています。これは経営陣自身のバリュエーション警戒を示唆していると考えられます。

判定 — Watch (確信度: 中) 論点「AI データセンター需要が牽引する受注残 150 億ドルと高収益成長」が positive、論点「株主整合の報酬設計と独立性の高い取締役会、中計連続超過の実行力」が positive で、事業の質は長期 Buy 級です。しかしながら、論点「PER 97 倍と逆 DCF 5.68% が示す将来成長の過剰織り込み」が強い negative で、論点「液冷アームレースと汎用電機大手の侵攻による競争激化」と論点「インサイダー売り越し・自社株買い停止・出来高減が示す需給の重さ」が下支えを弱めます。したがって、長期の事業魅力は高いものの現値の織り込みが過剰なため、押し目（フェアバリュー 217 ドル近辺、サポート 305~310 ドル）を待つ Watch とします。

この章のまとめ

- 判定は Watch (確信度: 中)、目標株価は DCF 中央値 217 ドル、現値比 -34.5%
- 事業の質は最高クラスだが、株価が将来成長を 3 割超過剰に織り込む
- 論点連鎖の総合は §10 投資判断で扱います

目次

0. 結論
1. 銘柄の所在地
2. 業績
3. 業界・競合
4. バリュエーション
5. マネジメント・ガバナンス
6. マクロ・ニュースフロー
7. テクニカル・需給とスイング戦略
8. シナリオ・反証・モニタリング KPI
9. リスク・カタリスト
10. 投資判断
11. 用語集
12. 参考資料

1. 銘柄の現在地

この章で見えてくること

§0 結論で示した投資判断の前提として、VRT の事業構造・株価水準・財務の健全性を確認します。

VRT はデータセンターの「電源」と「冷却」を一手に担う、データセンター物理インフラの専門最大手です。電源管理 (UPS・配電)、サーマルマネジメント (冷却・液冷)、ラックや統合システムを、施設レベルでまとめて提供できる点が強みです。地域別では米州が売上・利益の最大エンジンで、AI 投資が集中する北米を取り込んでいます。例えるなら、AI ブームという「ゴールドラッシュ」で、採掘者ではなく「つるはしとスコップ」を売る立場にあります。

PER (実績)

97.2倍

PBR

32.2倍

PER (予想)

52.2倍

EV/EBITDA

36.4倍

直近の終値は 331.44 ドル [B](#) (2026-06-03) です。この1年で 約 +195% [B](#) と、同期間の S&P500 (約 +19%) を大きく上回る急騰を演じました。その結果、トレーリング PER は 約 97.2 倍 [B](#) と、将来の高成長を相当織り込む水準にあります。株価は 52 週レンジ 内で 82% の位置 [B](#) にあり、高値圏での推移が続いています。

株価 1 年推移 (日次)



財務の質は高い水準です。FY2025 売上は 102.3 億ドル **A** で、フリーキャッシュフローは 18.94 億ドル **A** (フリーキャッシュフロー・マージン 18.5%) でした。自己資本比率は 32.3% **A** と中庸ですが、低レバレッジで安定したキャッシュ創出力があります。したがって、事業の足腰そのものは堅固だと言えます。

この章のまとめ

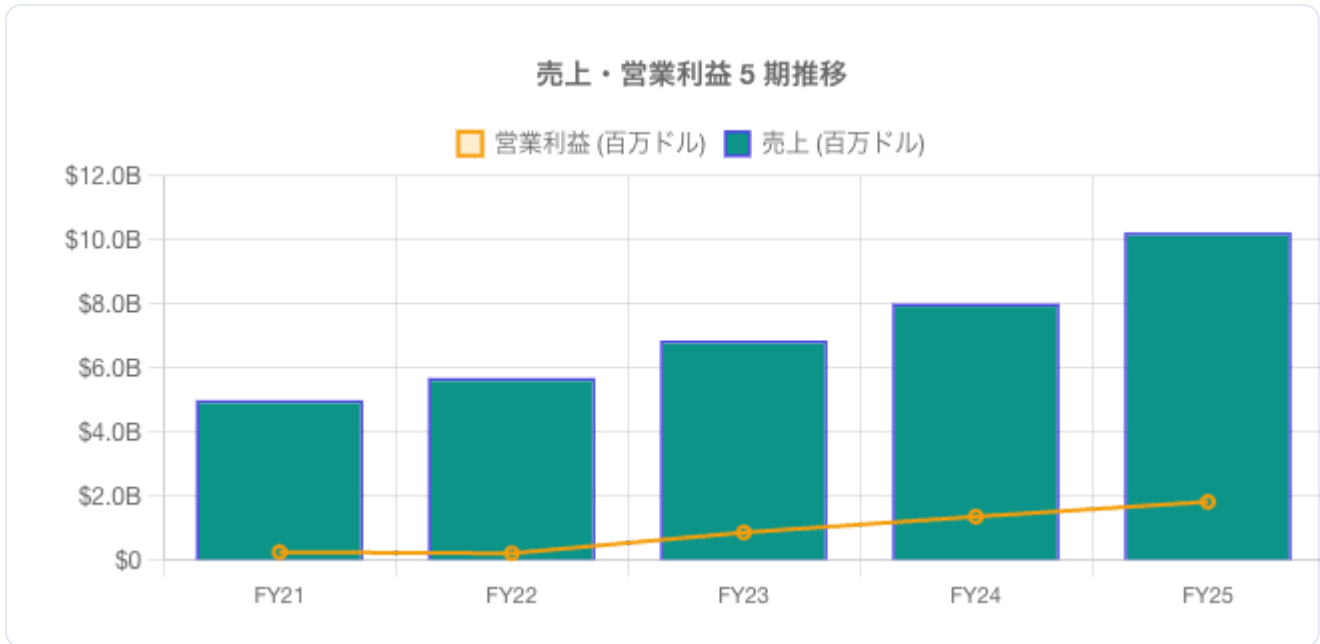
- データセンターの電源・冷却を担う純粋プレイ最大手、米州が最大エンジン
- 現値 331.44 ドル、1 年で約 +195% 上昇し PER 97 倍の高値圏
- 財務は低レバレッジで質が高く、§2 業績でその成長の中身を確認します

2. 業績 — 受注残 150 億ドルが牽引する高収益成長

この章で見えてくること

§1 で見た高い株価評価の土台となる業績を、売上・利益率の推移と受注残の積み上がりから掘り下げます。

VRT の FY2025 連結業績は、売上 102.3 億ドル **A** (前年比 +27.7%)、営業利益 18.30 億ドル **A** (営業利益率 17.9%) でした。売上の 3 年平均成長率は約 21.6% で、データセンター需要を背景に高成長を続けています。



注目すべきは、需要の先行指標である受注の強さです。受注残は 150 億ドル（前年比 +109%）[A](#) まで倍増し、Q4 の book-to-bill（受注 ÷ 売上）は 約 2.9 倍 [A](#)、オーガニック受注は 前年同期比 +252% [A](#) に達しました。book-to-bill が 1 倍を超えると受注が売上を上回り受注残が積み上がることを意味するため、2.9 倍は需要が供給を大きく先行している状態を示します。

キャッシュ創出力も高く、FY2025 のフリーキャッシュフローは 18.94 億ドル [A](#)（フリーキャッシュフロー・マージン 18.5%）でした。財務基盤は自己資本比率 32.3% [A](#) と中庸ですが、低レバレッジで質は高いと言えます。

経営陣の自信は、ガイダンスの連続上方修正にも表れています。FY2026 通期売上は期初の 132.5 億～137.5 億ドル [A](#) から 135.0 億～140.0 億ドル [A](#) へ、adjusted EPS は 5.97～6.07 ドル [A](#) から 6.30～6.40 ドル [A](#) へ、adjusted 営業利益は 約 32 億ドル [A](#) へと引き上げられました。FY2025 通期売上も オーガニック成長 26% で着地 [A](#) しており、保守的に設定して上振れさせるパターンが続いています。そして この上方修正は 2026 年 4 月の Q1 決算で実施されました [A](#)。

この章のまとめ

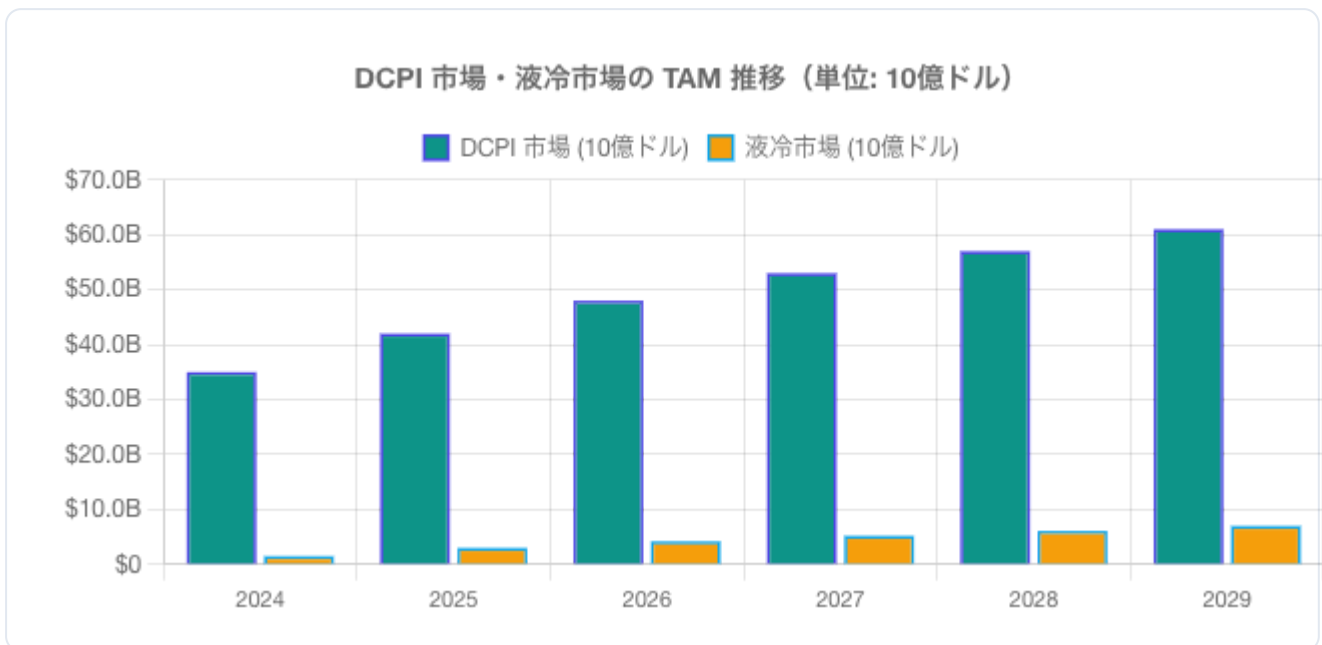
- 売上 +27.7%、3 年 CAGR 21.6% の高成長と営業利益率 17.9%
- 受注残 +109%・book-to-bill 2.9 倍が需要の先行を裏付け
- §3 業界・競合では、この需要の源泉と競争環境を確認します

3. 業界・競合 — 液冷アームレースと競争激化

この章で見えてくること

§2 で見た受注の強さを生む業界の構造と、そこで進む競争激化を、市場規模・液冷シフト・競合の M&A から掘り下げます。

VRT が属するデータセンター物理インフラ市場は、構造的な成長局面にあります。市場規模は 2029 年に 610 億ドル（2024～2029 年の年平均成長率 約 14%）[B](#) へ拡大する見通しです。需要ドライバーは 世界のデータセンター全体の設備投資で、2024 年は 4,550 億ドル（前年比 +51%）[B](#) に達しました。



とりわけ成長著しいのが液冷市場です。液冷市場は 2029 年に約 70 億ドルへ拡大し、GPU の消費電力は 2029 年までに 4,000 ワット超 [B](#) へ高まる見通しです。さらに 世界のデータセンター電力消費は 2030 年に約 945TWh へ倍増 [A](#) する見込みで、高効率電源と液冷の需要を押し上げます。

企業	FY2025 売上 (USD bn)	営業利益率 (%)
Eaton Corporation plc	27.4	19
nVent Electric plc	3.9	15.8

FY2025 売上・営業利益率のピア比較（SEC 開示の Eaton・nVent と当社。Schneider/ABB/Delta は §1.2 で質的比較）

ただし、この有望市場では競争が激化しています。Eaton が Boyd Thermal を 95 億ドルで買収し熱管理（液冷）に本格参入 [A](#) しました。Eaton は FY2025 売上 274 億ドル [A](#) ・ 営業利益率 約 19% [A](#) と、VRT を大きく上回る規模を持ちます。一方、液冷専門の nVent は FY2025 売上 39 億ドル [A](#) ・ 営業利益率 約 15.8% [A](#) と純度は高いものの規模が小さく、2025 年に熱管理事業を 16 億ドルで売却 [A](#) しました。VRT 自身も PurgeRite（約 10 億ドル）を買収して対抗 [A](#) しています。

この競争激化は、VRT の主戦場である液冷で 競争リスクが顕在化しつつある [A](#) ことを意味します。資本力で勝る大手の攻勢は、中期的に利益率を圧迫する可能性があります。

この章のまとめ

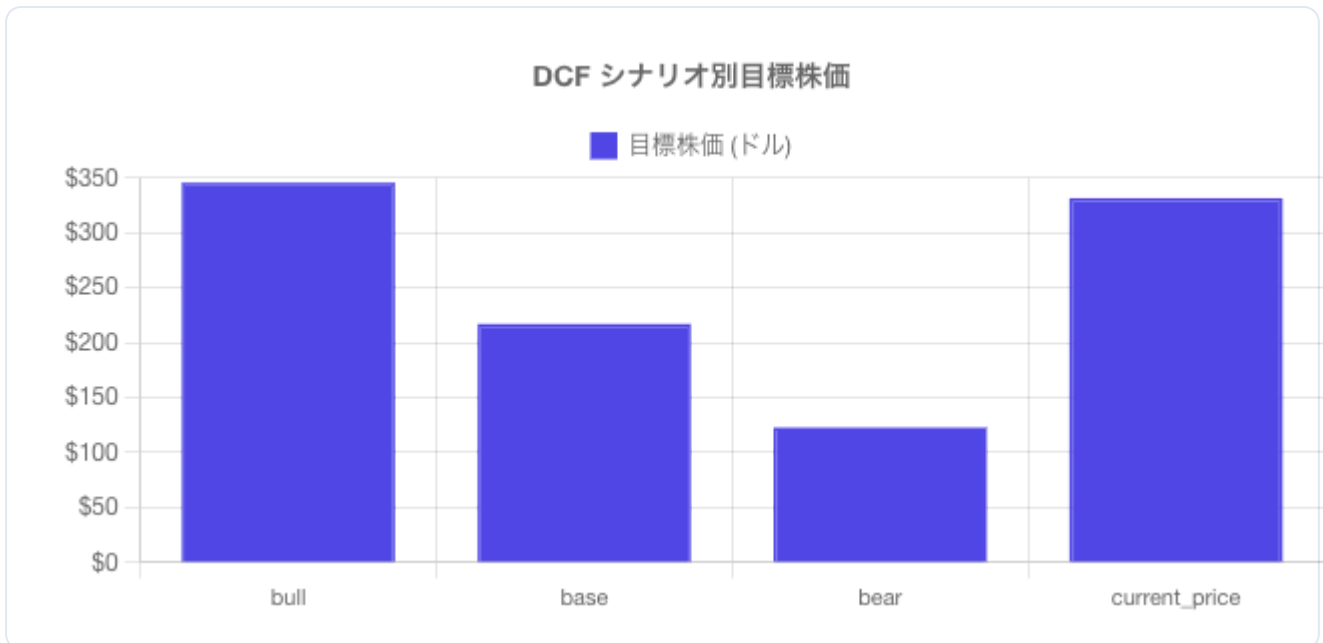
- DCPI 市場は 2029 年 610 億ドル、液冷は AI で構造成長
- Eaton（売上 274 億ドル）の液冷参入が最大の競争リスク
- §4 バリュエーションでは、この成長と競争を織り込んだ適正株価を検証します

4. バリュエーション – PER 97 倍と逆 DCF が示す過剰織り込み

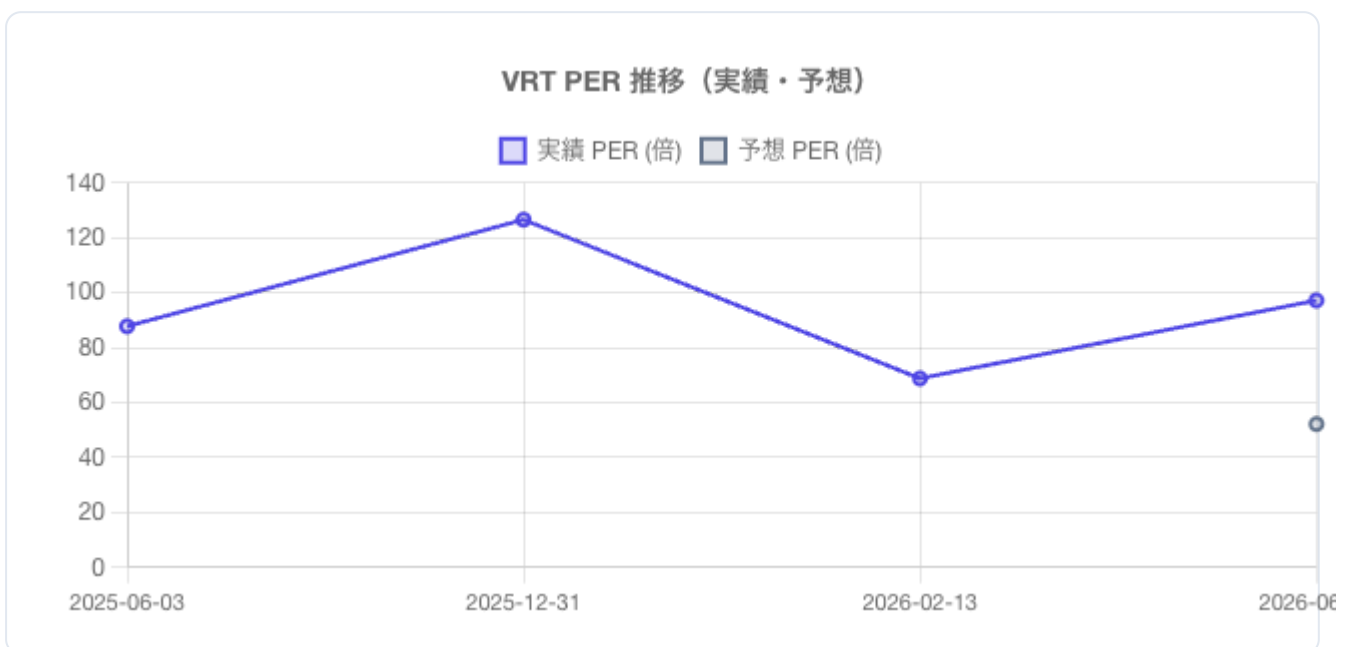
この章で見えてくること

§3 で見た成長と競争を踏まえ、DCF と逆 DCF を使って「株価が将来をどこまで織り込んでいるか」を検証します。

DCF と複数手法で求めたフェアバリューは、おおむね 217～222 ドルに収束します。DCF の中央値は 217.00 ドル [A](#)（弱気 122.70 ドル [A](#) / 強気 345.55 ドル [A](#)）で、これが目標株価の係留点 217 ドル [A](#) となります。別手法のクオリティ・ディフェンシブ視点では 222.25 ドル [A](#)（予想 PER 35 倍 [A](#) 基準）です。これらに対し、現値 331.44 ドルは 3 割超も高い水準にあります。



このレポートの肝が、逆 DCF です。逆 DCF は「現在の株価から逆算して、市場が織り込んでいる成長率」を求める手法です。VRT の場合、現値を正当化するには 永久成長率 5.68% **B** が必要になります。これは名目 GDP の上限 (3~3.5%) を 2 ポイント以上も上回り、「急成長が永遠に続く」という明確な強気バイアスを示します。これが目標株価 217 ドル **A** を現値が大きく上回る理由です。



唯一の救いは PEG です。PEG は約 1.04 **A** で、予想 PER を 1 株利益の成長率で割ると辛うじて適正圏に入ります。しかし PER 97 倍・PBR 32 倍 **B** という絶対水準の高さは、成長が少しでも鈍化した瞬間にマルチプルが圧縮される下方リスクを内包しています。

この章のまとめ

- フェアバリューは 217~222 ドルで、現値は 3 割超割高
- 逆 DCF は非現実的な永久成長 5.68% を要求し、強気バイアスが明白
- §5 マネジメント・ガバナンスでは、この成長を実行する経営の質を確認します

5. マネジメント・ガバナンス — 株主整合の報酬と実行力

この章で見えてくること

§4 で割高と判断した株価の一方で、成長を着実に実行してきた経営の質を、報酬設計・取締役会の独立性・中計の達成度から確認します。

経営陣の質は高いと評価できます。CEO は Giordano Albertazzi (生え抜き 25 年超、2023 年 1 月就任) **A** で、CFO は Craig Chamberlin (2025 年 11 月就任の新任) **A** です。新任 CFO の財務トラックレコードは社外依存となる点が留意点ですが、中核ポストは生え抜きが固めています。

報酬設計は株主との整合性が高い点が特徴です。CEO 報酬は FY2025 トータル 1,831 万ドル **A** で、そのうち 業績連動部分 (At Risk) の比率は 92% **A** を占めます。At Risk とは業績や株価に連動して変動する報酬の割合で、92% という高さは「株価が上がらなければ経営陣の報酬も増えない」構造を意味します。

ガバナンス面では、取締役会の 独立比率が約 82% **A** と、NYSE 基準 (過半数) を大きく超過しています。実行力の裏付けとして、中期計画の KPI (営業利益連動) は 3 年連続で大幅超過 (2025 年は 220%) **A** しており、目標を保守的に置いて着実に上回る規律が見て取れます。

この章のまとめ

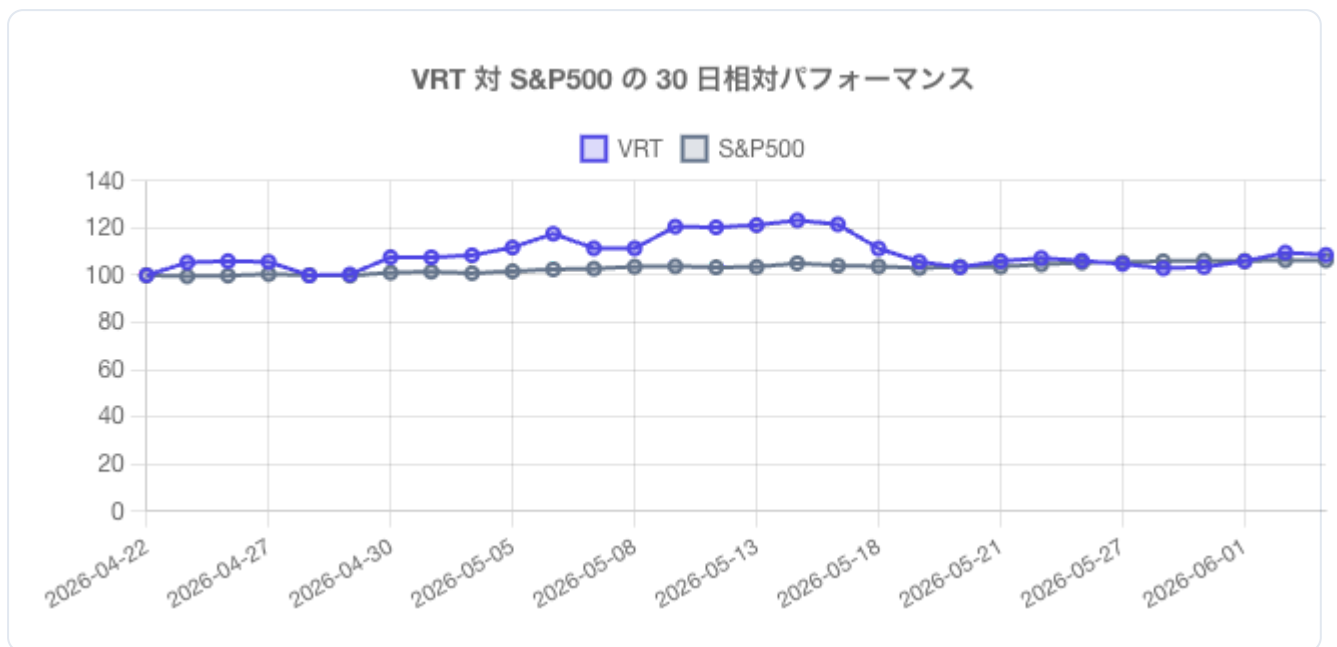
- 業績連動報酬の比率 92%、取締役会独立比率 82% と株主整合が高い
- 中計 KPI は 3 年連続大幅超過で実行力を裏付け
- §6 マクロ・ニュースフローでは、株価を取り巻く環境要因を確認します

6. マクロ・ニュースフロー

この章で見えてくること

§5 で確認した経営の質とは別に、株価を取り巻くマクロ感応度と直近ニュースを、セクター対比・金利・地政学から確認します。

VRT はセクター内で相対的に強く、直近 30 日のセクター相対は +2.3 ポイント **B** です。ただし 3 年ベータは 2.09 **B** と、市場の倍以上に振れる高ボラティリティ銘柄である点に注意が必要です。



マクロ感応度では、金利が最も重要です。損益面の影響は金利 +100bp で純支払利息が約 1,080 万ドル増（営業利益の約 0.6%） **A** と軽微ですが、本質は別にあります。PER 約 97 倍の高デュレーション成長株のため、長期金利の変動が割引率を通じて株価に強く効く **A** のです。為替は二次的で、海外売上比率は 41.2% **A**、Q1 2026 は為替の換算効果が売上を +3% 押し上げ **A** ました。コモディティは 価格 +10% でヘッジ評価益 +1,580 万ドル **A** と 転嫁管理下にあります。地政学面では、米国向け売上が 58.8% **A** と一国集中で、対中・対メキシコ関税は公式リスク要因として開示されているものの、価格転嫁で吸収中 **A** です。業界サイクルは 拡大期の早期～中期 **A** と位置づけられます。

直近のニュースフローも、需要の強さと供給の制約という両面を映しています。WSJ は 2026 年 6 月、米データセンター建設が電力・電気機器のボトルネックで遅延していると報じました **B**。これは需要が強い一方で供給が律速されている状況を示し、VRT には追い風

と出荷遅延リスクの両面があります。また 競合 Eaton の Boyd Thermal 約 95 億ドル買収
B が報じられ、液冷分野での競争激化が改めて意識されています。

この章のまとめ

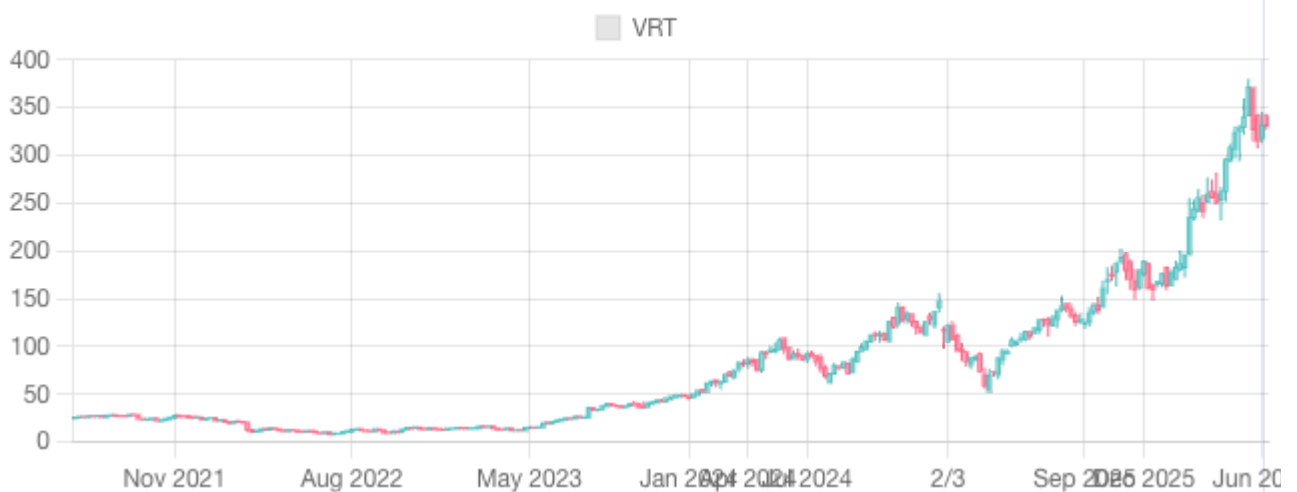
- セクター相対は強いが、ベータ 2.09 の高ボラで金利に敏感
- 需要は強いが電力・機器のボトルネックで供給は律速
- §7 テクニカル・需給では、足元の地合いと短期の立ち回りを確認します

7. テクニカル・需給とスイング戦略

この章で見えてくること

§6 で見たマクロ・ニュースを踏まえ、足元の株価のテクニカルと需給から、短期の立ち回り方を整理します。

株価 5 年推移 (週次)



直近の株価は上昇トレンドが健在で、50日・200日移動平均をいずれも上回っています。一方で、現値は20日移動平均をわずかに下回り、高値圏での調整局面にあります。RSIは中立水準で、過熱は解消されています。

需給面には弱さが見られます。2026年2月の株価ピーク手前で、取締役・執行役員が約49万株・約1.2億ドルを協調売却し、直近6か月は売り越し **A** となりました。さらに30億ドルの自社株買い枠のうち24億ドルを温存したまま、買い付けを停止中 **A** です。株価は52週レンジの82%という高値圏 **B** にあり、出来高は0.78倍へ減少 **B** しています。このように、経営陣の利確と自社株買いの停止、出来高の減少が、上値を重くしています。

以下のスイングプランは、あくまで**2026-06-03時点の目安**であり、市況の変化により随時無効になります。

スイング戦略

様子見

※2026-06-03 時点

現時点でスイングの妙味は限定的です（上昇トレンドだが需給弱く明確なスイングセットアップ未成立（現値が20日線下・需給スコア中立未満））。新規のエントリー水準は提示しません。

この章のまとめ

- トrendは上向きだが、現値は20日線を下回る調整局面
- インサイダー売り越し・自社株買い停止・出来高減で需給は弱い
- §8 シナリオ・反証では、これらが変化した場合の対応方針を確認します

8. シナリオ・反証・モニタリング KPI

この章で見えてくること

§2～§7で深掘りした論点を、強気・中央・弱気の3シナリオに織り込み、判定が変わる反証条件と追うべきKPIをまとめます。

3つのシナリオで、目標株価は大きく分かれます。強気では成長が持続し345.55ドル **A**、中央では正常化に向かい217.00ドル **A**、弱気ではAI投資が減速し122.70ドル **A** となります。確率加重の期待値は約217ドルで、強気シナリオでようやく現値に並ぶ非対称な下方リスク構造です。

強気 (Bull)

21%

345.6

中央 (Base)

50%

217

弱気 (Bear)

29%

122.7

投資判断を覆す反証条件としては、ハイパースケーラーの設備投資減速で book-to-bill が 1.0 倍を割り込むこと、10 年米国債利回りが 5% 超へ再上昇すること、競争激化で米州の営業利益率が継続低下することが挙げられます。とりわけ AI 投資サイクルの後期化・ピークアウト **A** は、受注残が 12~18 か月で履行される点で時限的なリスクです。

事実	関連論点	出現確率 (%)	影響度
ハイパースケーラーのAI設備投資が減速しbook-to-billが1.0倍を割り込む	AIデータセンター需要が牽引する受注残150億ドルと高収益成長、PER97倍と逆DCF5.68%が示す将来成長の過剰織り込み	30	AI需要ピークアウト
10年米国債利回りが5%超へ再上昇し高PER成長株の割引率が切り上がる	PER97倍と逆DCF5.68%が示す将来成長の過剰織り込み	35	金利によるマルチプル圧縮
EatonのBoyd Thermal統合とSchneiderの液冷攻勢でAmericas営業利益率が継続的に低下する	液冷アームレースと汎用電機大手の侵攻による競争激化、PER97倍と逆DCF5.68%が示す将来成長の過剰織り込み	40	競争による利益率浸食
受注残の出荷が前倒しで進みFY2026ガイダンスを再上方修正、成長持続が確認される	AIデータセンター需要が牽引する受注残150億ドルと高収益成長、PER97倍と逆DCF5.68%が示す将来成長の過剰織り込み	30	成長持続でブル化

投資判断を覆す事実セット

この章のまとめ

- 強気 345.55 ドル / 中央 217.00 ドル / 弱気 122.70 ドル、期待値は約 217 ドル
- 反証条件は book-to-bill 1.0 倍割れ・金利 5% 超・利益率低下
- §9 リスク・カタリストで、これらを時系列のイベントに整理します

9. リスク・カタリスト

この章で見えてくること

§8 で示した反証条件と KPI を、短期のカタリストと中長期の構造リスクに分けて時系列で示します。

2026-06-15

配当 基準日 (\$0.0625/株、四半期)

IG格付後も配当継続で財務規律シグナル。ただし利回り0.08%でインカム妙味は皆無

2026-06-17

年次株主総会 (11:00 ET、バーチャル)

取締役選任・役員報酬・監査法人承認の採決。経営陣信任とガバナンス安定の確認

2026-06-25

配当 支払日

調整後フリーキャッシュフロー (FY2025 18.87 億ドル) の安定キャッシュ創出の裏付け

2026-07-25

FY2026 Q2 決算発表 (日付は推定、IR未確定)

売上・adj.マージン・book-to-bill・backlog更新と通期ガイダンス再確認。Americas成長(Q1+44%)
継続なら再上方修正、受注鈍化なら高PER97xで調整

2026-09-30

NVIDIA連携 800VDCポートフォリオ投入 (2026後半)

1MWラック対応の電源世代交代を先取り。リファレンス設計標準採用で受注先行。競合との標準化シェア争い激化リスクも

2026-06-30

Eaton×Boyd Thermal \$9.5B クローズ見込み (2026 Q2)

競合の液冷・熱管理困り込み完了。Eatonの熱管理直接侵攻で価格・シェア競争が顕在化

短期では、株価を動かさしめるイベントが控えています。直近では 2026 年 6 月 17 日の年次株主総会 **A** と 1 株 0.0625 ドルの四半期配当 (基準日 6 月 15 日) **A** がありますが、いずれも株価ドライバーとしては中立です。より重要なのは、競合 Eaton の Boyd Thermal 買収 (95 億ドル) が 2026 年 Q2 にクローズ見込み **A** である点で、液冷の競争が一段と強まります。さらに FY2026 Q2 決算 (7 月下旬推定) では、連続上方修正されてきた通期ガイダンス **A** の再確認が焦点となります。

2026-12-31

高バリュエーション巻き戻しリスク (FY2026通期)

PER97.2x・逆DCF永久成長5.68%の楽観バイアス。長期金利再上昇または成長僅減でマルチプル圧縮、株価感応度が非対称に大きい

2027-06-30

AI CapExサイクルのピークアウト/後退 (FY2026-27)

受注残 150 億ドルは12-18ヶ月で履行。ハイパースケーラーCapEx減速・book-to-bill 2.9x割れが成長前提を崩す

2027-12-31

液冷直接侵攻による競争激化 (Eaton/Schneider)

Americas営業利益率26.8%の高マージンが熱管理の価格・標準採用シェア競争で削られる中期リスク

2027-12-31

米国売上58.8%集中×電力供給制約による出荷遅延

PJM接続審査長期化・変圧器逼迫で建設遅延→出荷期ズレ・受注リスクスケジュール。米国固有ショックへの感応度を最大化

中長期では、構造的なリスクが複数あります。第 1 に PER 97 倍・PBR 32 倍の高マルチプル巻き戻し **B** で、金利上昇や成長僅減がトリガーになります。第 2 に AI 投資サイクルの後期化・ピークアウト **A** です。第 3 に 液冷での競争激化 **A** で、米州セグメントの高い利益率が中期的に削られる可能性があります。第 4 に 米国売上 58.8% 集中と電力供給制約 **A**、第 5 に 最終需要の上位ハイパースケーラーへの集中 **A** が挙げられます。

この章のまとめ

- 短期：Eaton の液冷買収クローズと FY2026 Q2 決算が焦点
- 中長期：高マルチプル巻き戻しと AI 投資ピークアウトが最大リスク
- §10 投資判断では、これらを総合して最終的な判定を確認します

強気の論点

AI データセンター需要が構造的に拡大し、受注残 150 億ドル（前年比 +109%）が高い可視性を持ちます。

データセンターの電源・冷却を一手に担う純粋プレイで、AI 投資へのレバレッジが最大です。

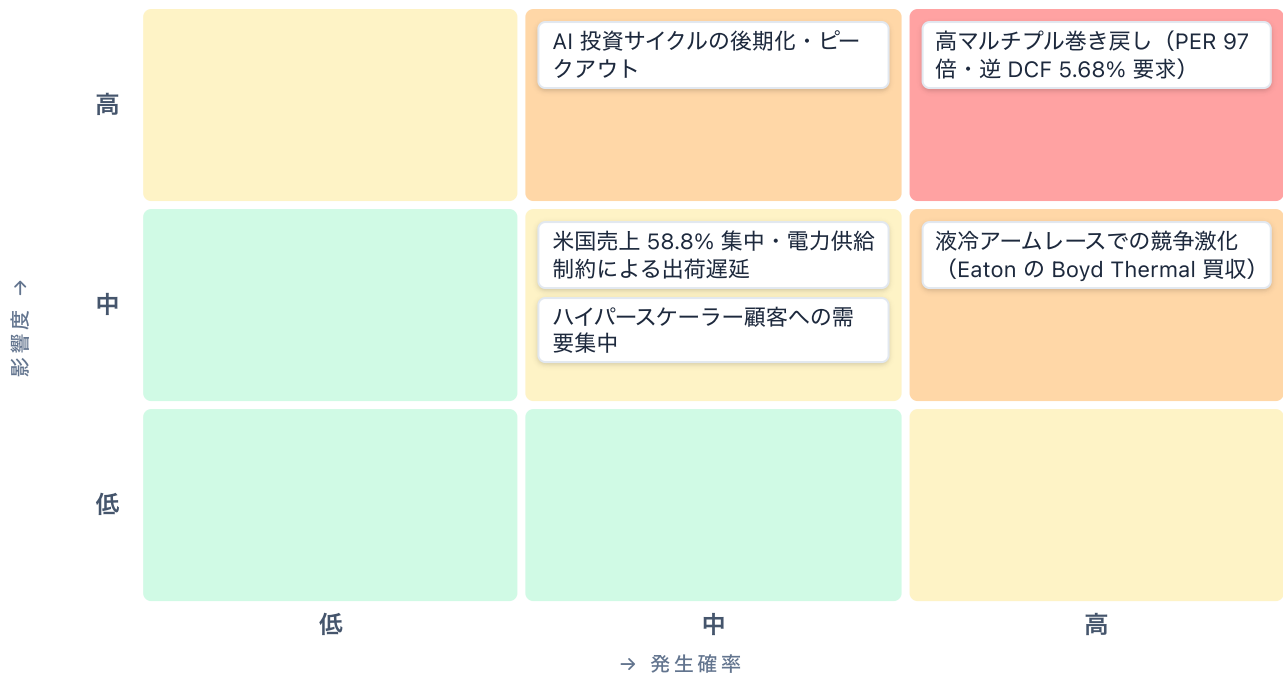
株主整合の報酬設計と中期計画の連続超過という実行力で、需要を着実に収益化しています。

弱気の論点

PER 97 倍・逆 DCF が永久成長 5.68% を要求し、将来成長を過剰に織り込んでいます。

Eaton・Schneider の液冷侵攻で、米州セグメントの高い利益率が中期的に削られる懸念があります。

インサイダー売り越し・自社株買い停止・出来高減で、足元の需給が弱含んでいます。



次回決算 (FY2026 Q2)

2026-07 下旬(予定)

2026 Q2 競合 Eaton の Boyd Thermal (95 億ドル) 買収がクローズ見込みで、液冷の競争が一段と強まります。

中

2026-07 下旬 FY2026 Q2 決算。連続上方修正してきた通期ガイダンスの再確認が焦点です。

高

10. 投資判断

この章で見えてくること

§0 で示した Watch 判定を、5 つの投資目的レンズと長期・スイングの二層で最終確認します。

長期見通し

WATCH

確信度 中

目標株価

217

想定保有

12~24か
月

電源・冷却の純粋プレイ最大手だが現値が
DCF公正価値の3割超上方にあり押し目待ち

スイング見通し

様子見

※2026-06-03 時点

上昇トレンドだが需給弱く明確なスイング
セットアップ未成立（現値が20日線下・需
給スコア中立未満）

投資目的別の適性

目的	適性	保有期間	参考フェアバリュー	ひとこと
グロース 主目的	○	3~5年	\$217.00 (DCF)	AIデータセンターインフラの純粋プレイ最大手で受注残・液冷の構造成長レバレッジが最大。グロース投資家に最適だが現値はDCF公正価値217ドルを大きく上回り、押し目を待つ局面。
インカム（配当）	×	—	—	配当利回りは約0.08%でインカム妙味は皆無。株主還元は成長投資とM&Aが優先され配当はトークン水準。
バリュー	×	—	—	PER97倍・PBR32倍・逆DCF5.68%要求と全マルチプルが極端で安全余裕がない。バリュー投資の対象外。
クオリティ・ディフェンシブ	△	1~3年	\$222.25 (マルチプル)	ROE41.8%・ネットデット/EBITDA0.55倍・投資適格格付と財務の質は高いが、PBR32倍・ベータ2.09の高ボラでディフェンシブ性は乏しい。フォワードPER35倍のフェアバリュー222ドルまで調整すれば質を割安に捨てる。

目的	適性	保有期間	参考フェアバリュー	ひとこと
イベント・短期	△	数ヶ月～1年	—	ATR5.2%・ベータ2.09の高ボラでサポート305-310ドル/レジスタンス347-380ドルの値幅取りは可能だが、インサイダー売り越し・出来高減で需給が弱く確信度は限定的。

投資目的ごとの適性は、次の通りです。**グロース**（○ 妙味あり、3～5年）は本命のレンズで、AIデータセンターインフラの純粹プレイ最大手として最大の魅力がありますが、フェアバリュー 217ドル **A** を大きく上回る現値では押し目待ちが妥当です。**インカム**（× 不向き）は配当利回りが約 0.08% とトークン水準のため対象外です。**バリュー**（× 不向き）は全マルチプルが極端で安全余裕がありません。**クオリティ・ディフェンシブ**（△ 条件付き、1～3年）は ROE や低レバレッジなど財務の質は高いものの、高ボラでディフェンシブ性に乏しく、フェアバリュー 222.25ドル **A** までの調整を待ちたいところです。**イベント・短期**（△ 条件付き、数ヶ月～1年）は値幅取りは可能ですが、需給が弱く確信度は限定的です。

スイングについて改めて整理します。長期判断（DCF 中央値 217ドル **A** に対し現値が割高で Watch）が主軸であり、スイングはあくまで短期の目安です。2026-06-03 時点では、上昇トレンドは健在ながら需給が弱く、明確なエントリー条件は成立していません。サポート 305～310ドルへの調整と需給改善が揃うまでは、新規の買いを急がない様子見が妥当と考えます。

この章のまとめ

- グロース目的でも現値は割高で、押し目（217ドル近辺）待ちが妥当
- インカム・バリューは不向き、クオリティは条件付き
- 長期 Watch とスイング様子見は方向が一致し、高値追いを避ける局面です

強気 (Bull)

21%

345.55ドル

+4.3%

AI 投資が永続し成長持続、マルチプル維持

中央 (Base)

50%

217.00 ドル

-34.5%

成長が正常化しマルチプルがフェアへ圧縮

弱気 (Bear)

29%

122.70 ドル

-63.0%

AI 投資減速・競争激化・金利上昇

- ✓ 事業の質：AI データセンターインフラの純粹プレイ最大手、受注残 +109%
- ✓ 財務の質：営業利益率 17.9%・低レバレッジ・高いキャッシュ創出力
- ✗ バリュエーション：PER 97 倍、フェアバリュー比 3 割超割高
- ! 需給：インサイダー売り越し・自社株買い停止・出来高減
- ! 競争：Eaton・Schneider の液冷侵攻で利益率に中期リスク

目標株価 (中央)

217 ドル

DCF 中央値、現値比 -34.5%

主目的レンズ

グロース O

3~5 年、押し目待ち

押し目の目安

305~310 ドル

主要サポート帯

想定保有期間

12~24 か月

長期主軸

217 ドル

DCF 中央値 (目標株価)

現値 331.44 ドル比 -34.5%

11. 用語集

主要用語

DCPI(データセンター物理インフラ)	データセンターの電源管理 (UPS・配電)、サーマルマネジメント (冷却・液冷)、ラック・統合システムなどの物理設備の総称。VRT の主戦場です。
液冷(リキッドクーリング)	高発熱の GPU サーバーを液体で冷やす方式。空冷では追いつかない高密度の AI ラックで採用が進み、データセンター冷却の主役になりつつあります。
book-to-bill	受注額を売上額で割った比率。1 倍を超えると受注が売上を上回り、受注残が積み上がっていることを示します。
受注残(バックログ)	受注済みでまだ売上計上していない金額。将来売上の可視性を測る先行指標です。
PER(株価収益率)	株価を 1 株あたり利益で割った倍率。利益の何年分が株価に織り込まれているかを示し、高いほど将来の成長期待が大きいことを意味します。
逆 DCF	現在の株価から逆算して、市場が織り込んでいる成長率を求める手法。実績や予想と比べることで、株価が強気・弱気どちらにバイアスしているかが分かります。
PEG	予想 PER を 1 株あたり利益の成長率で割った指標。1 倍前後なら成長に対して株価が妥当とされます。
FCF(フリーキャッシュフロー)	営業活動で稼いだ現金から設備投資を差し引いた、自由に使える現金。配当・自社株買い・M&A の原資になります。
At Risk 比率	経営陣の報酬のうち、業績や株価に連動して変動する部分の割合。高いほど株主との利害が一致します。
ベータ	市場全体に対する株価の変動の大きさ。2.09 なら市場の約 2 倍動く高ボラティリティ銘柄であることを示します。

12. 参考資料

Tier A [Eaton Corp plc Form 10-K FY2025 BUSINESS SEGMENT INFORMATION \(R117\)](#) ↗

Tier A [Eaton Corp plc Form 8-K \(2026-01-26\) Exhibit 99.1 Mobility separation](#) ↗

Tier A [Eaton Corporation plc Form 8-K Exhibit 99.1 \(Q4/FY2025、Boyd Thermal買収、SEC EDGAR\)](#) ↗

- [Tier A IEA Energy and AI \(World Energy Outlook Special Report\) ↗](#)
- [Tier A nVent Electric plc Form 10-K FY2025 Item 1 Business ↗](#)
- [Tier A SEC EDGAR Form 4 \(Vertiv Holdings Co CIK 0001674101、2026-02-17/02-26/03-06 各 accession\) ↗](#)
- [Tier A Uptime Institute 15th Annual Global Data Center Survey 2025 ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co 2026 Proxy Statement \(DEF 14A\) p16 Director Independence ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co DEF 14A \(2026-04-24、Notice of Annual Meeting、SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Form 10-K FY2025 ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Form 10-Q FY2026Q1 ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Form 8-K \(2026-06-03\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Form 8-K Exhibit 99.1 \(2025-12-05、PurgeRite買収完了、SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Form 8-K \(2026-06-03、Item 8.01 配当宣言、SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Q1 2026 Earnings Release \(EX-99.1, 8-K\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Q1 2026 Earnings Release EX-99.1 \(FY2026通期ガイダンス上方修正、SEC EDGAR\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Q4 & FY2025 Results \(SEC 8-K / IR, 2026-02-11\) ↗](#)
- [Tier A Vertiv Holdings Co Q4 2025 Earnings Release \(EX-99.1, 8-K\) / Form 10-K FY2025 ↗](#)
- [Tier A Vertiv IR 『Vertiv Collaborates with NVIDIA to Advance 800 VDC Platform Designs』 ↗](#)
- [Tier B Bloomberg ↗](#)
- [Tier B Bloomberg Government News ↗](#)
- [Tier B CNBC ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース 2025-02-05 ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース 2025-03-19 ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース 2025-12-10 ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース 2026-01-08 ↗](#)
- [Tier B Dell'Oro Group プレスリリース 2026-03-19 ↗](#)
- [Tier B Financial Times ↗](#)
- [Tier B FRED DFEDTARU \(Federal Funds Target Range - Upper Limit, Federal Reserve\) ↗](#)
- [Tier B FRED DGS10 \(10-Year Treasury Constant Maturity, Federal Reserve / U.S. Treasury\) ↗](#)
- [Tier B MarketsandMarkets Data Center UPS Market 公開サマリ ↗](#)
- [Tier B Nikkei Asia ↗](#)
- [Tier B Nikkei Asia ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Reuters ↗](#)
- [Tier B Wall Street Journal ↗](#)
- [Tier B Yahoo Finance VRT ↗](#)
- [Tier C Axios ↗](#)
- [Tier C DataCenterDynamics ↗](#)
- [Tier C DataCenterDynamics ↗](#)
- [Tier C DataCenterDynamics ↗](#)

本レポートは、特定の有価証券・金融商品の売買を勧誘・推奨することを目的としたものではなく、執筆者が個人的に整理した投資調査メモを共有するものです。記載内容は作成時点で入手可能な公開情報に基づいていますが、情報の正確性・完全性・適時性について保証するものではありません。

投資判断はすべて読者ご自身の責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者は一切の責任を負いません。為替変動・流動性低下・規制変更・地政学的事象などにより、想定外のリスクが顕在化する可能性があります。

記載される目標株価・損切ライン・タイムホライズン等は、公開時点での執筆者の見解であり、将来の運用成果を保証するものではありません。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。